

国語科 公開授業 指導案

＜授業者＞ 横山大祐	＜公開学級＞ 2年A組	＜場所＞ 2階2年A組教室
------------	-------------	---------------

1 単元名 いにしへの心を尋ねる「仁和寺にある法師－「徒然草」から（本時2／3）

2 教材について

本単元は、古典を取り扱う単元である。古典には、現代に通じる価値観や、現代とは違ったものの見方や考え方が描かれている。学習指導要領国語編の（3）「我が国の言語文化に関する事項」イ「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表われたものの見方や考え方を知ること」では、古典を通して、現代語訳などを参考にしながら昔の人の心に触れ、古典の世界を楽しむとともに、今を生きる自分たちを振り返るきっかけにすることが求められている。

本教材は、「徒然草」の中でも説話的な出来事に内在する人間の意識や、生活上の問題について述べられた第52段を取り上げている。自分が達成したい目的について事前に誰かに尋ねていたり、誰かとともに行動しようとしていたりしたら、作中に表されているような失敗をすることはなかったことだろう。「ちょっと人に教えてもらう」ことを欠いたことで、目的を達成することができなかった。そのような体験は、中学生であれば共感できる部分も多いことだろう。この作品を読むことで、独り合点に陥った人間のおかしさや先達の重要性について、現代の社会でも通用する人間観・人生観を感じ、昔の人の心に触れるとともに、今を生きる自分たちの生活を振り返ることにつなげていきたい。作者のものの見方や考え方を捉えることは、「作者との対話」である。そして、自分の生き方を振り返ることは、「自己との対話」である。授業の中の「仲間との対話」に加え、このように様々な対話が含まれていることを意識しながら、主体的・対話的に学び取らせていきたい。

3 研究に関わって

生徒の実態から、研究内容に関わって以下のような指導・援助を考えた。

研究内容(1) 主体的・対話的な追究活動の工夫

ウ：追究活動を深める資料・ICTの活用

追究活動の際には、タブレットを用いて自分の知識の根拠となる経験を象徴したイメージ図を提示することで、相手を意識して対話的に伝えようとする意識を高めるようにする。その際に、自分の経験が思い浮かばない生徒や、経験があっても自分の考えを表出するのに時間がかかる生徒がいることが予想される。そのため、先に考えをまとめた生徒の考えを見て参考にするすることで、どの生徒も自分の考えを作ることができるようにする。

手立て① タブレットによってイメージ図を提示する活動を行う。また、先に考えを作った生徒の考えを他の生徒も共有できるようにする。

研究内容(2) 自己肯定感の向上を促す終末の工夫

イ：学習内容の定着が実感できる評価問題・活動

学習内容の定着が実感できるように、授業の終末部分では、自分の本時の学びを140字以内で書きまとめる活動を設定した。それを用いて追究活動の前に設定した評価項目を振り返り、ペアになって互いの意見や根拠の評価を行うことで、学習内容の定着を実感できるようにする。

手立て② 活動前に評価項目を明らかにしておき、終末のペア交流で振り返る。

4 本時のねらい

「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」という筆者の考えについて、互いの経験を根拠に意見を交流することを通して、自分や仲間の経験と結び付けて筆者の考え方に共感し、自分の意見を7行以上10行以内で書きまとめることができる。

5 本時の展開

	学習活動	指導・援助 留意点
導入	<p>1. 前時の内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者は、「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」と考えている。 ・「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」とは、「先に経験している人に教えてもらうことで失敗を避けることができる」ということだ。 ・この考えは、現代の私たちの生活にも通じるだろうか。 <p>2. 筆者の考えがどのような場面で現代に通じるか考え、課題化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、習い事をしたときにこの考えが通じると思う。 ・私は、旅行のときにまさにこの話のような経験をしたことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習計画を確認し、ペアで前時の学習内容を振り返ることで、全員が本時の課題を把握し、主体的に授業に参加する意識を高めるようにする。 ・終末の交流活動を意識させることで、相手意識を高め、より対話的に学ぼうとする
展開	<p style="text-align: center;">自分や仲間の経験を根拠に、筆者の考えについての意見を書きまとめよう。</p> <p>3. 課題解決の見通しと本時の評価規準を確認して、自分の立場とその根拠となる知識や経験をまとめる。</p> <p>経験…自分が体験したこと → イメージ図などで説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで自分の経験にあったイメージ図などを使って説明すれば、相手に分かりやすく伝えることができる。 ・イメージに合った写真とともに、自分の経験を説明しよう。 ・私が部活動に初めて入った時に、どうすれば演奏が上手くなるか全くわからなかった。でも、先輩や先生が見本を見せてくれたから、上手くなれた。 ・家族と旅行に出かけたときに、事前に何も調べずに出かけていったので、上手く旅先を回ることができなくて、時間をむだにしまったことがあった。 <p>4. タブレットを用いて、班で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私も筆者と同じような経験をしたことがあります。」(立場) ・「この写真を見てください。小学生のころ…。」(根拠) ・「だから私も、先達が必要だと思います。」(立場・意見) <p>5. 班の意見を受けて、代表者が全体に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの班では、学校で同じような経験をしている人が多かった。例えば、部活動の中で先輩がお手本を見せてくれたために、上手くなったという人がいた。 ・家庭科の作品作りで、自分が上手く作品を作れないときに、先に完成させた仲間が作り方を教えてくれたので、作品を完成させることができたという人もいた。 ・先達がいたことで、得をした人もいたし、いなかったで損をしたという人もいた。 <p>6. 自分や仲間の経験をもとに感じたことを7行以上10行以内で書きまとめ、ペアで評価基準にそって振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・追究活動に入る前に本時の評価項目を明確にすることで、終末の場面に向けてより主体的に学ぼうとする意識を高めるようにする。 <p>研究内容(1)ーウ</p> <p>タブレットによってイメージ図を提示する活動を行う。また、先に考えを作った生徒の考えを他の生徒も共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識や体験がない生徒は、先に考えをまとめた生徒の考えを見て参考にするように促し、どの生徒も自分の考えを作れるようにする。
	終末	<p>私は筆者の言う通り、先達は必要だと思った。</p> <p>部活動に入ったときに、先輩や先生がお手本を見せてくれて、自分も楽器の演奏が上達したという経験が、自分にもあったし、周りの人にもあった。</p> <p>だから、自分でやってみることで可能性が広がることもあるが、やはり一からすべて自分でやるより、誰かのやったことを参考にすることは大切だと思った。</p> <p>・〇〇さんは、自分の小さい頃の経験を挙げて根拠にしていたので、聞いていても納得することができたし、意見がよく伝わってきた。私も筆者の意見に納得できたので、これからも先に行動している人の意見を大切にしたい意識をもって、生活を送りたい。</p>

※ 部分は訂正箇所